



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

NO. 2551

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

クラブ会報 なんと

撮影 写真同好会 山田清志会員



コテレワークスペース

のではないのでしょうか。

このところコロナ感染者数が減少傾向にあり、かつ軽症や無症状の方がほとんどとは言え、精神的経済的不安や後遺症もあり、やはりコロナ感染再拡大防止に努めなければなりません。南砺クラブの活動回復の上で親睦は重要ですから、コロナ禍の中でも機会を設けて行くべきとは思いますが、今後は手指消毒の徹底と換気や手持ちマスクの習慣化を心掛けてははいかがでしょうか。

◆幹事報告 吉田実幹事

- ①第2510地区大日向豊吉(おおひなたとよきち)ガバナーより、書籍「来し方行き方」の紹介がありました。著者は2005-06年のガバナーを務めた塚原房樹氏(つかはらふさき) 希望者注文受付中!
- ②高岡、小矢部、氷見、氷見中央RCより例会変更、取消のご案内
- ③石崎家具(株)代表取締役社長石崎雄世様より、石崎家具遊部川原工場の失火のお見舞いお礼状届いています。
- ④第7回日台RC親善会議福岡大会に登録しました。5月6日16:00より

第2610回例会 令和4年4月26日(火)晴25℃

- ◆開会 12:30 北島芳信会長
- ◆司会 片山道代SAA
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆会長の時間 北島芳信会長



クラブHPへ

皆様今日は。今回も多数のご参加をありがとうございます。卓話担当の高野会員におかれましては、ご多忙とは存じますがご準備をいただき誠にありがとうございました。よろしくお願ひ致します。

さて、ご報告ですが、新湊ロータリークラブ創立50周年記念式典・祝賀会が、4月23日(土)17時から射水市・クロスベイ新湊にて開催され、当クラブからは谷口副会長と私で出席させて頂きました。会場は旧市役所の跡地で2年前にオープンした複合交流施設ということで、ケーブルTV局・商工会議所・観光協会等がテナント入りしています。隣にホテルが建設中でこの施設と繋がるそうです。

参加者は120名余りで、来賓は市長・市議会議長・各経済団体長、特別招待はガバナー・同グループ内バスタガバナー及びガバナー補佐・地区幹事、一般招待はスポンサークラブ及び第3第4グループクラブ会長等・友好クラブ・報道関係者でした。

式典は30分余り、祝賀会は1時間半ほどのプログラムで行われました。少し控えめながら恒例的な開催内容だったかと思ひます。記念事業は、運動競技場への時計台2基寄贈と別日程で開催される東京大学教授の講演会等とのことでした。当日アトラクションとして行われました詩吟と舞踊の共演等は普段なかなかお目にかかれるものでは無く興味深いものでした。

コロナ対策では、施設入口に自動検温機・手指消毒器が設置され、アミューより一回り大きいホールに5人掛丸テーブルが無理なく通れる間隔をとって配置され、基本的にマスク会食でお酌交歓等の立回りを控えてテーブル毎での歓談をとされました。

祝賀会料理は松花堂弁当式にお造り・かに・笹寿司等で、自車で帰る方も多くノンアルコール飲料が多くでていたようで、立ち回りをしない分食事に時間を使うので食品ロスも少ないように思ひました。お土産には鯛の飾り蒲鉾等を戴きました。

当クラブでも次年度は創立55周年を迎えますが、コロナ感染症が終息していない中での宴席はこのような様式が基本になる

★ニコニコボックス 4/26 森 悦夫委員長

井沢君 お見舞いをいただき、ありがとうございました。

澤田君 このたび、砺波市、小矢部市、南砺市の木材組合を統合して、砺波地区木材組合を設立して、微力ながら、初代組合長に任命されました。林業・木材業の成長産業化を目指して、地域の活性化、地域の発展に少しでも貢献出来ればと思ひます。皆様のご指導ご鞭撻、よろしくお願ひ致します。

高野君 2610回例会日に卓話が当りました。心に残る日に出来て、感謝です。

古軸君 遅くなりましたが、結婚記念日お祝ひ有難うございました。

荒井君 高野さん、久しぶりの卓話です。楽しみにしております。

吉田実君 高野さん、卓話よろしくお願ひ致します。

森 悦君 毎年のことですが、3日前にピンクの牡丹が一番最初に咲きました。毎朝、庭を見るのが楽しみです。明日あたり、赤と白のポカシの花が開きそうです。

山田孝君、中田君/高野さん、卓話楽しみです。

松本君 高野会員、よろしく御願ひします。

牧 君 小雨けぶる高速道を、ただひたすら、弁当にありつけるよう走ってきました。イエ、卓話に間にあってよかった!

石崎和君 高野さん、卓話期待しております。

岡部君 久しぶりに高野さんの卓話、聞かせて貰ひます。楽しみです。

柳 君 週末から、G.Wが始まります。農家にとって休みはありませんが、雨が降らないことを祈ります。

大西君 山菜、盛り沢山の季節ですネ!! 高野さんの卓話楽しみです。が、……………すいません、早退します。

船藤君 本日、早退します。

本日のプログラム 5月10日(火) 第2611回例会
 福野高IA部設立式 福野高東雲ホール 16:00
 担当 片山浩一委員長

◆出席報告 谷村修基委員長		
会員数	4月26日出席率	4月12日(未修正)
44 (免除2)	63.64% (欠16)	78.57% (欠9・メーク?)

次回の予定 5月17日(火) 第2612回例会
 RAセミナー(ゲストスピーカー) 中田悠貴南砺RAC会長
 担当 尾山裕和RA委員長



私は昭和63年の12月に入会しまして今年で34年目になります。大体新入会員は親睦活動委員会に入るといのがその時の習わしと言いますが、そういうのが通常でした。私の入会した時は例会場でなく親睦活動委員会の会合に行った日が入会日となっています。その親睦活動委員会の会合というのが福岡さんのよろずやで行われていました。いきなり右も左もわからず行ったのですがその時

の親睦活動委員長、森さんのお父さん、森啓一さんに「おお、よく来たな」と声をかけて頂きました。クリスマス会の準備だったと思うのですがその会議に参加させて頂いて懇親会にも参加して行こうとすることで、入っていきなり懇親会で、ロータリーは飲む機会が多いところだなという感じでした。年が明け、1月になると今度は新年会、そして3月になると4月に向けて懇親会ということで、ロータリーに入ると懇親会が続き、なんちゅういいクラブだなと思いました。また、例会場には歴代のこの辺の名士の方が顔を揃えておられるので、毎週ピクニックしながら出席していた、そんな印象でした。昔は食事会後の方で新入会員がよそで配膳するということもあり、30年前というのはちょっと封建的な雰囲気もあったのかな、という気もします。服装も厳しく、必ずスーツにネクタイというきちんとした服装で来るのがロータリアンだ、という雰囲気でした。私は自動車屋なのでいつもはツナギを着て車の下へ潜っているものですがから例会に出る度替えてくなくてはならず大変でした。冬は着替えが寒く、例会に行くための着替えが憂鬱でした。そんな中、例会に来て会員さんの顔と名前がなかなか一致せず、困ったなと思っていた時、次はニコボックス委員会の委員にさせて戴きました。提出される用紙に書かれる名前と顔を見ることで会員さんの名前を覚えることができました。だから新入会員さんはニコボックス委員会の委員長さんでなくても受付席に座られると会員さんを覚えるのが早くなるのではないかと思います、あれはいい機会を与えて戴いたなという風に今でも思い返します。RCの先輩方はそういった気遣いや配慮で委員の方を選んでおられたのかなと思います。

RCに入って34年目になりますが、例会場に何をしに来ているのかなと今でも考えることがあります。ロータリーは奉仕の団体ですね、RCに入った時は「ロータリーはI serve」、自分からするサービスだと言われました。つまり自分から奉仕するのが「I serve」で、皆で集まってやるのが「We serve」だという風に教えられてきました。自分の感覚では10年位は例会の度に誰かが「I serve」、「We serve」の話をされていた様に思います。RCに出席してロータリーの話をするということとはなかなか無いのですが、最初の頃RCはただ食事をして帰るだけなのかな、という雰囲気のまま、私も来ていました。先輩にこれは何なのだろうか、と聞きましたら、RCというのはサロンだ、という考え方を持っておられました。だから自分で何かしようという思いが無ければそれだけで終わってしまう。積極的に自分からほかの人と関わりあっていく、いろんな人と話をする、その機会を例会ということに与えられているんだよ、ということでした。ロータリーの奉仕というのは職業奉仕などの時間と色々話されたりするのですが、ロータリーというのは職業奉仕が基本だ、と言っている様にロータリアンは基本的に企業の代表者の方々の集まりです。ポール・ハリスが作った時も企業の人たちが信用できる者同士、安心して仕事のできる仲間を作ろうというのがロータリーの基本だったんです。ですからロータリー自体というのは職業を基本とする職業奉仕の思想なんです。最初のロータリーというのは仲間内でお互いに利益を出そうというクラブだった訳ですけど、その仲間内だけというのが時勢に合わなくなってきた1930年ぐらいからは世の中には社会奉仕というものが必要だという考え方も出てきたんです。その時代に奉仕の仕方の考え方、I serve、We serveということでロータリーとライオンズクラブが分かれているんです。ロータリーの奉仕という考え方が、職業人の企業主達が自分たちの仕事を伸ばしていく、商売を伸ばしていく仲間作りをするのがロータリークラブだ、という事なんです。ロータリーを理解するという事は、商売が上手になる事に通じます。何故かというロータリーは職業を伸ばして行って自分たちの理想というものが世の中の平和を導くものだ、という思想があるからロータリアン達は頑張っている、という事が最近よく分かる様になって来たんです。何故私がロータリーをやったのかという事が最近ほかの人の話を聞いてきた事で、はっと気がついたのがロータリーは何故職業人の集まりなのかという事は、職業人であるからこそ出来る事があるんだという事、一般の人の奉仕とロータリアンの奉仕とどこが違うか、自分の持っている職業を通じて世の中のために尽くす事が出来るんですね、自分の組織力とかがあってやれる、という事なんです。そのやり方を表したのがここにロータリーソングが掲示してある4つのテストなんです。そういうことを実践すると、もはや必ず儲かるんです。何故かということ、神様に家内安全、商売繁昌とお祈りすることがありますが、その時、商売繁昌を神様に頼るものではない、と聞いたんです。自分がお客様に来てもらえる様に今日私が努力します、仕事を一生懸命します、よろしく願います。ということを祈るのであって、商売繁昌だけを神様に頼んでも願いは叶わない。願いを叶えてもらうのではなく、世の中のお客様に自分がどれだけ尽くせるか、今日もこれだけ働かせてもらいました、と感謝をしながら仕事をするということ、これが自分がす

る職業奉仕なんです。これはロータリーに入らなくても、昔から商売をする人の信念と言いますか考え方というのが日本にはあるんですね。だから日本のロータリアンはロータリーの思想、考え方に早く馴染めたんです。ヨーロッパなどの人達はどちらかという個人主義、利己主義的な人が多い傾向がありますが、日本にはお客様は神様だ、という言葉があるくらいお客様の気持ちをどう掴むか、今日もお客様のための事ができたかな、と考えながら日々仕事をする、そういう事がロータリーの奉仕の一番わかりやすい考え方です。これがI serveです。それで今言われているのが社会奉仕、ロータリアンは自分の中だけでやっているのではなく、世の中のため、自分の仕事を通じて出来る社会奉仕がないか、その事を通じて社会に奉仕していこうと、そういう考え方が広がってきたんです。

皆さんの中には、ロータリーに入って長い方もおられますし、最近入った方もおられますが入られた以上、ロータリーとは何かという事を一度は考えられた事があると思います。ですから、意義のあるクラブ活動をやってもらう為にはそれなりの意義、思いというものをある程度理解してやるのと、ただ例会に参加するだけとは違いぶん違うと思います。ロータリーで払う会費の見返りをもたらしていこうという気持ちを持って例会場へ来て戴き、今日は誰々と話したな、そして何を待たかなと、今日はだいたいけど、誰々の顔を見て元気を貰えたな、とそういう例会会場にしてほしいんです。ロータリーはそういう思いを持った人達が疲れた時とか思い悩む時に、例会場に来て話し合える仲間がいる。だからロータリーは懇親会を大事にしている、困った時に話し合える仲間がいる、それがロータリーの本場であるよ、と思います。ポール・ハリスも最初、会員の中で困った時相談し合う人がたくさんいた、と歴史書にも書いてあります。その時は奥さんがいろいろ面倒を見たか書いてありましたが、ロータリーが親睦を大事にする原点がそこにもあります。ですから、ロータリーに毎週なぜ来なくてはならないかと思つた時は、今日は気分を変えて一寸違った事を見てみようかな、という気分転換の機会にする事もできる。そして職業奉仕の考え方を通して、自分の仕事のやり方について思い返す良い機会でもあります。例会場ではロータリーについての話をあまりしませんが、ロータリーが何であるのか、と他の人に聞かれてもロータリーの意義を答えられるような位になれるよう皆んなで話し合える機会があってもいいのではないかと思います。

ロータリーで社会奉仕がなぜ行われる様になったかと言えばロータリー財団が出来たからです。ロータリアンには昔は財団とかなくて、ロータリアンで協力してクラブで社会奉仕として最初にシカゴに公衆トイレを作りました。地域の人たちにとって何が重要かという事に耳を傾けるようになったんです。つまり社会奉仕というのはこちらから与えるのではなく、ニーズに答える事なんです。誰も希望しない物はこちらから押し付けるというのは奉仕ではないし、押し付けで良くないし、出来れば社会奉仕という物はいかに地域のニーズという物を拾い上げてくるかという事が大事なんじゃないかと思います。

今、職業奉仕がどうなっているのかという話がよく出てくるのですが、社会奉仕は5大奉仕の中に入っているのですが、クラブで行われる社会奉仕というものが、先ほど話したように職業奉仕が「I serve」だとするとクラブでやる事が無いんです。クラブで行うという事は集団で行うという事ですから自分の職業と違う奉仕をするという、自分の職業的知識を生かす職業奉仕では無いので、クラブで行われる職業奉仕というのは私が入った頃は職場訪問、一泊で会社訪問とこれでした。今、クラブでやる職業奉仕は何かと言われているのはこれだけ素晴らしい職業人のトップの方が集まっているのだからそれを活かさないかというのが今言われているIRの職業奉仕なんです。つまり会員の中に素晴らしい職業知識を持たれる人がいるので、その人と皆んなで協力してその人を生かす奉仕をしよう、だから50人いれば50回、その人の専門の奉仕が出来る、このようにして皆んなでやるというのが社会奉仕、これが今、RIで言っているクラブでやる職業奉仕、というのが私の思いでの簡単な説明です。基本的には「I serve」、自分が出来る奉仕をやっていく、お客さんをどの様に大事にしていくか、お客さんに来て良かった、買って良かった、と喜んでもらえる事を第一に考える仕事をしなさい、という事なんです。

ロータリーに入られてから目覚めて、RIの会長になられるくらい奉仕についてしゃかりやられた人もいます。地区大会で来られる講師の方達が経験してきたロータリーの話聞いて、ロータリーというのは本当に勉強すると今私が言った様な精神がわかってきてそういう事ができるようになるんだな、と。つまり成功の哲学といった本がありますが、成功する基本は最終的に何かという習慣です。やり続ける事です。普通の人間は飽きてきて出来ないですね。だから成功者は少ない、成功する人は信念を持ってそれをやり続ける、それだけです。だからロータリアンも研鑽して自分を磨きなさいという事言ってるんですけど結局は自分自身で自分を磨いていく道場なんですよ、ということなんです。ロータリーに入ってこんな経験ができるんだな、とかこういう事だったんだな、という事が少し分かってもらえたかなという所ですけど、わからない時はまたよく分かる人に聞いてください。今日はこれまでにしておきます。ありがとうございました。(この後、質問に答えて見解を述べられました。が紙面の都合により、割愛いたします。)

(今回の会報担当・谷村修基)